

交付税措置をプラスと！

答 財政負担を軽減する



あおやま ひでき
青山 英樹 議員

青山 交付税措置、財政的プラス要素と考えるか？

交付税の単位費用は17年前で97円、今65円と下降。まして給与に例えると、残業代は100%出すが、本給部分は下げて総額を少なくする給与体系と同じである。今や交付税措置は財政的なプラス要素ではないことについて町長はどう考えるのか尋ねる。

町長 「交付税措置される起債」とは、地方交付税制度の目的の一つである財源保障機能であり、地方債の元利償還金に対する交付税措置として、基準財政需要額へ参入されることで、地方公共団体の将来における財政負担を軽減するものとなっている。「交付税措置される起債」の具体的な実例をあげると公債費総額及び基準財政需要額への算入額のい

町政を問う（一般質問）

れにおいても、多くの比率を占めている「臨時財政対策債」であります。臨時財政対策債の元利償還金相当額は、その金額が、後年度の普通交付税の基準財政需要額に算入されるものであり、財源保障がなされている。今後も地方交付税制度の財源保障機能による、行政運営のための必要な財源として、将来の財政負担軽減を図りながら、町民主体のまちづくりを目指して、効果的かつ効果的な財政運営に努めてまいります。

町の将来像とは！

答 未来を拓く日本三大開拓地

さわやかな田園のまちやぶき

青山 民意の集約と町民との共有、そして町政への反映をどのようにするのか。

「未来を拓く日本三大開拓地さわやかな田園のまち やぶき」と掲げられる町の将来像とは何か。
大型ハコ物事業ばかりでなく、置き去りに

される身近な住民の要望の解決には町民との差異があることの所感について。

町長 町の将来像、キャッチフレーズについては「未来を拓くさわやかな田園のまち、やぶき」と掲げ、矢吹町の特徴として「日本三大開拓地」を全面に出すことにより「人」「くらし」「子ども」「仕事」「支えあい」が有機的に連携し、「誰もが住んでよかった」「今後も住み続けたい」と思える理想のまちを目指している。このように、新たなまちづくりの実現に向けては、町民、行政、議会の協力なくして進展はあり得ません。今後のまち

づくりにおいては、町の将来像を明確にし、ビジョンを共有することが重要となり、その旗印となるキャッチフレーズには、一つ一つの言葉に意味を持たせている。「未来」「拓く」「日本三大開拓地」「さわやかな田園のまち」これらの言葉がつながることによって、「未来を拓く日本三大開拓地さわやかな田園のまち、やぶき」の将来像が浮かび上がり、具体的にイメージされた中で、町民、行政、議会が一体となったまちづくりが可能になるものと考えている。



その他の質問事項
・新町西線について